

DTB TEAM#1

1985年に創業、そして『スーパースマッシュ』の大ヒットにより、ポリエステル・ストリングのバイオニアとして世界にその名が知られた『キルシュバウム』。いかにもドイツのメーカーらしく、進化の歩みを止めずに絶えず新しい価値の創造にチャレンジする『キルシュバウム』が2012年、市場に送り出す新アイテムの一つが、今回ご紹介する「DTB TEAM#1」だ。



キルシュバウム DTB TEAM#1

●税込価格: ¥2,310 (本体 ¥2,200)
●カラー: スカイ・ブルー ●素材: ポリエステル
●長さ: 12m ●ゲージ: 1.25mm

期待をこらえて上回る、これくらい回転をかけたくなと思うよりも少し上をゆる回転感を感じさせてくれるので、感情的に「うれ

て好き嫌いがあるだろうが、「DTB TEAM#1」はポリが好きならもちろん、今まで敬遠してきた人にも、きつと「ポリのよさ」が味わるのではないだろうか。

「DTB TEAM#1」は「プロライナー」の姉妹品で、パワーとスピ

ン、そしてコントロール性能のバランスがよく、長時間のプレーに適したモデルとして人気の「プロライナー」をベースに、ドイツテニス連盟(DTB: Deutscher Tennis Bund)との共同開発により完成した。打球感は「プロライナー」よりも柔らかく、そのうえにテンション維持力も高いストリングに仕上がっているという。

「キルシュバウム」が想定している対象プレーヤーは、ドイツを中心としたヨーロッパの、主にクレイコートでプレーする競技者、そして日本では主にオムニコート(ハードコート)でプレーする競技者だ。

「DTB TEAM#1」を「目見ると、その鮮やかなスカイ・ブルーのカラーに目を奪われる。ストリングのカラーリングに使用される顔料は、実はストリングの性能に少なからぬ影響力を持つっており、青は「硬い」という印象を抱きがちなポリエステル・ストリングに柔らかなファイリングを与え、「DTB TEAM#1」では、例えば非力な人でもポリエステルならではのパワーやスピン性能を比較的享受しやすくなっているのだという。

そして、このスカイ・ブルーはドイツテニス連盟のイメージカラーでもある。

どんなストリングなのか?

「キルシュバウム」初の1ゲージ展開、柔らかさとテンション維持力の絶妙なバランスを実現した「DTB TEAM#1」

もうひとつ、「DTB TEAM#1」の開発コンセプトとして特徴的なのは、「切れない耐久性能」ではなく、「性能をフルに発揮する持続性能」を追求したこと。そのため、これまで0.025mm刻みのラインチップで多様

TC編集部のインプレッション

「期待を上回る打球感」と「シヨットに対する信頼感」で、ポリエステルの新境地を突進!!

期待以上のパワー感と、想像以上のスピン性能を発揮してくれるストリング……それが「DTB TEAM#1」の第一印象だ。試打にあたる編集部Mは46歳男性。特別なトレーニングをしているわけではないので、年齢相応の筋力の持ち主として読んでほしい。

とにかく、ストリング自体が持つ能力の高さをとても強く感じさせる。ふだんはフラット系やスライスを中心としたスイングののだが、「こ」さらさらリグリにこすり上げるようなスイングをしなくとも、「こ」の場面では、ちよと多めにスピンをかけたくな」と意識するだけで、打球に想像以上のスピ

な「サー」に近づく「キルシュバウム」だが、「DTB TEAM#1」は同社のポリエステル・ストリングとして初の1ゲージ展開(1.25mmのみ)となっている。そしてこの1ゲージが、「DTB TEAM#1」の柔らかさとテンション維持力の絶妙なバランスを実現しているのだという。

「キルシュバウム」が「ポリエステル系」ストリングの進化版としての自信作」と胸を張る、このDTB TEAM#1。TC編集部では、早速そのファイリングを試してみた。

「ストリングなのだ。打ち続けているうちに思わず笑顔になってしまふ。そして、しっかりと相手コートのベースラインギリギリに収まってくる。適切な伸びのために、信頼感も生まれてくる。

「期待を上回る感覚」と「信頼感」は変わらなかった。チャンスでフラットにたたきつけるようなボレでは、狙いに対して直線的にシヨットが決まる感覚が得られ、また相手ボールがネットを山なりに越えてきて、少し強めにスライスをかけて返さなければならぬようなボレでは、相手の動きに応じてボレの長短がしっかりとコントロールできる。

レクリエーション的にテラを楽しむたい人にはもちろん、積極的に試合に出る人にとっても、シヨットやゲームメイクで積極的になれる、自信を持たせてくれるストリングだと思